

評価する際のポイント

2021年2月 学生審査会



- ①指導性
- ②社員の協力体制
- ③現実性
- ④独自性
- ⑤効果性

上記5つの項目でプログラムの評価を行って頂きます

【①指導性】の評価ポイント

学生が自分の適性や能力を把握するための、
職務適正や本人の資質に関する適正なフィードバックが合ったか。

判断する際の基準

【対象】フィードバックは個人に対するものか、グループに対するものか

【様式】口頭のみか、書面のみか、口頭と書面両方でのフィードバックか

【時間】個々人が腑に落ちるよう、必要十分な時間をかけてフィードバックされているか

【頻度】フィードバックは期間中毎回行われていたか、1週間おきなど定期的な期間毎であったか、

最初と最後・または最初のみ・最後のみであったか、期間を通して1回のみであったか

【多面性】評価者は複数部署や複数人数等によって行われる多面的なものであったか

【内容】フィードバックを受けて、インターンシップへの取り組み姿勢・プロセス・成果など、インターンシップでの学びを深めることができるか 学生自身の長所・短所や職業適性など、個人の資質に踏み込んだ内容であったか



【②社員の協力体制】の評価ポイント

社員の協力がどの程度あったか(時間・人数・部署の多様性)。
協力社員の職務特性や業務内容を活かしたものであったか。

判断する際の基準

【社員の協力体制】多くの社員から協力を得て運営されたプログラムだったか

【役職の多様さ】社長や役員、現場の管理職や社員など、複数の立場の社員と話せる機会が設けられていたか

【交流した社員の数】採用担当部署以外の多くの社員と話をする機会が設けられていたか

【話せた時間の長さ】採用担当部署以外の社員と時間をかけて話のできる機会が設けられていたか

- 普段の生活や働き方など、リアルな情報提供を心がけているプログラムであった様子が感じられたか
- 交流を通して学生にとって学びがあると感じられるか
- 社員が学生の成長を意識して交流している様子が感じられたか
- 社員・役員との交流は、その職務特性や業務内容を活かしたものであったか
- この交流を通して、学生は今後の学生生活において、周囲の人と交流することの必要性に気づくことができるか

【③現実性】の評価ポイント

現場体験の機会にどれだけリアリティのある体験をさせられているか。
業務を通じて学生が自分の将来に対して、具体的なイメージを持てる内容か。

判断の基準

- 実際の現場で実務を伴い働く経験ができるプログラムだったか(例:営業社員との同行や業務の実体験)
- ロールプレイング形式での仕事体験をするプログラムがあったか
- 実際の仕事のシミュレーション体験のできるプログラムがあったか
- 企画立案、課題解決、プレゼンなどのグループワークがあったか
- 人事や社員の講義・レクチャーがあったか
- 社員・役員との交流会があったか
- 社長や社員の外回りの同行があったか
- 実施した現場体験の内容は、リアリティのある体験をさせられているものだったか
- 業務を通じて学生が自分の将来に対して、具体的なイメージをもてる内容であったか



【④独自性】の評価ポイント

自社の業務や職務を説明するにあたり、プログラムに独自の取り組みや工夫があるか。

判断の基準

- ゲーミフィケーションなど、学生が飽きない工夫があったか
- 協力会社や外部施設等を上手く活用していたか
- 期間や時間を有効活用し、効率的に学習を進める工夫があったか
- ビジネスモデルを分かりやすく伝える工夫をしていたか
- PDCAを回して改善が出来ている様子がうかがえたか
- 学生に自社の業務や職務を説明するにあたり、プログラムに独自の取り組みや工夫が感じられたか
- インターンシップアワードの開催趣旨「学生にとって有意義なインターンシップとは何かを明らかにする」に合致しており、2つの評価軸「社会的・職業的自立」「教育的効果」に沿っており、学生に参加を勧めたいプログラムであるか
- 上記に当てはまるものはないが、インターンシップでの学びを深める独自の工夫がなされていたか



大学での学びやキャリア選択などに対して効果的な影響があるか

判断の基準

- 自分のキャリアには様々な選択肢があることを実感し、興味をもてる業界・会社・仕事内容が広がるプログラムであるか
- 就職活動を進める上で、OB・OG訪問の重要性や、学生同士での情報交換の必要性、そのほか大学のキャリアセンターなどの活用の必要性を感じる事ができるプログラムであるか
- 仕事や働く事に対する意欲が高まり、社会人としての準備や覚悟ができるプログラムであるか
- インターンシップアワードの開催趣旨に合致しており、参加を勧めたいプログラムであるか
- 自分の強みや弱みを把握し、周りの学生と比べた、今の自分の実力を客観的に把握できるプログラムであるか
- 大学での学びの先が意識できるプログラムであるか
- 大学での学習との有機的なつながりを感じることができるプログラムであるか
- 大学での学習意欲向上に寄与するプログラムであるか